# 立　野

練馬区立立野小学校
平成２７年　　１０月 号
http://www.tateno-e.nerima-tky.ed.jp


## 「推し量る力」を読書で育てる

副校長　　加納　聖一

「暑さ寒さも彼岸まで」とよく言われますが、シルバーウィークの頃からはすっかり秋めいて、過ごしやすい日が多くなりました。

学校では、今週末（１０月３日）に迫った運動会に向け、９月中旬から特別時間割が組まれ、どの学年も一生懸命練習に取り組んできました。運動の好きな子供は多いですが、苦手だと感じている子供もいます。それでも、子供たち同士の前向きな教え合いや保護者の皆さんの温かな励ましを受け、様々な思いを乗り越え練習に励み、運動会を迎えようとしています。当日は、子供たちの活躍にご期待ください。

さて、本校では日常から、保護者ボランティア「よみママ」の皆さんによる読み聞かせをはじめ、区立図書館からの団体貸し出しの活用等を行い、本に触れ読書に親しむ機会をつくっていますが、１０月は「読書月間」として読書活動に取り組みます。運動会の翌週からは、図書館の方にご協力をいただき、「ブックトーク」や「本の探検ラリー」を通して、子供たちが読書の楽しさを一層味わえるように計画しています。ご家庭でも期間中は、読書の励行にご協力をよろしくお願いいたします。

「読書・朗読・読み聞かせは、行間を読む力がつく。イメージを広げることができる。」と、テレビ・ラジオ番組で活躍し図書館長も務めた、元ＮＨＫアナウンサーの鈴木健二氏は、著書『今、読書が日本人を救う』の中で力説しています。そして、映像と図書館の両方に携わった経験をもとに、テレビを見る時間を削り、読書をする時間を増やすことを訴えています。

確かに文章を読むときに、言葉と言葉の間や文と文の間にある「言葉や文章に表れていないもの」は、言葉や文章を読み深めることによって、そのイメージが作られ広がっていくことができます。それぞれの人がもっている「想像力」が大きな役割を果たすということになります。また、想像力は、表現が十分でなく、つたない話でも相手の言いたいことをその言葉から想像するといった相手を推し量る力・思いやる力にもつながります。

最近の国際的な読書時間の調査でも、日本の小中学生の読書量は少なく、活字離れに警鐘が鳴らされています。少しでも本と向き合い、読書に親しめる環境をつくり出したいものです。そして、「読書力」「想像力」を高め、心豊かな立野の子を育てていきたいと思います。今月もよろしくお願いいたします。

**教室等復旧工事について**

先日のお知らせでお伝えしたように、教育委員会をはじめ関係機関の皆様のご尽力で、教室の改修は順調に進んでおります。本日３０日、２年生の３教室の復旧が終了し、改修後の点検・安全確認検査を１０月１日に実施することになりました。不備がなければ、翌日の２日に３学級とも復帰させる予定です。続いて、６年２組の教室と校長室の復旧に、１５日頃をめどに入ります。今しばらくご迷惑をおかけしますが、どうぞよろしくお願いいたします。